

令和5年度 第1回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会
(概 要)

1 開催日時

令和5年6月16日(木) 13時30分～16時00分

2 開催場所

中部森林管理局 大会議室 (対面 web 併用方式による)

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4 検討結果

全国的な木材需給動向をみると、昨年以降、木材価格は下落傾向にあるものの、物価高騰により消費者マインドは落ち込み、そのあおりを受け、新設住宅着工戸数は昨年に比べさらに落ち込んでいる。そのため、プレカット工場等の稼働率も例年の同時期に比べ低い状況にあり、今後、国産材製品の出口戦略に工夫が必要との意見も出されている。

また、中部局管内の原木価格は、全国の動きと同様に下落基調となっているものの、全体的には踏みとどまっている状況が窺え、ウッドショック以前の水準よりは高めとなっている。ただし、国際情勢が不安定なことなどもあり、先行き不透明な状況は続いている。

こうした状況を見据え、中部局管内では、引き続き、本年度に計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材の供給を行うことが、管内の市況の安定化につながるものと考えられる。

よって、現時点での木材需給及び価格に大きな変動が見られないことを踏まえれば、直ちに国有林材の供給調整を行う必要性はないと判断する。

5 委員意見等

○梅雨期に入り、材質の悪化もあって手当てしたいものが買えない状況が続いている。ウッドショックの時は市場の動きが活発で、B級品もどんどん売れたが、今の市場は、変色・虫害等に敏感になっており、B級品が売りづらい状況が続いている。製品価格については、市場は厳しいけれども、取引先のハウスメーカーが比較的堅調であり、大幅な下落は今のところ無い。

令和4年2月のウクライナ侵攻から円安物価高が続いており、このままだとすると、外材の輸入リスクは高く、ビルダ一流通など国産材を一定量使用する流れは変わらないと思う。国としても、現状の全国の木材市場情報をしっかり収集し、安定供給体制をより強固なものにしてほしいと思っている。

○スギの原木価格動向について、下落傾向が続いているというのが見受けられるが、ウッドショック前の価格と比較すると、現状はm³あたり 2,000 円強高い価格で推移している。これ以上原木価格が下がり、以前の価格にまで戻ってしまうと、製品価格も以前の価格に戻ってしまう。ここが、山側としても、製材工場としても踏ん張りどころだと思っている。

競合製品である輸入材の価格を見ても、現在の製品価格が一番底値だと感じている。国産製品価格もその底値に合わせて、これに見合った形で輸入材と国産材と棲み分けがされた形で流通していると受け止めている。

ただし、需要そのものが収縮しているので、その辺りの需要拡大に向けた出口戦略を国としても色々な面で支援していただければと思っている。

○カラマツについて、去年は合板業界が減産したということが大きな影響を与えた。現在、輸入材がなかなか数量的にも入りにくい状況になってきたということもあり、国産カラマツ原木価格は、ほぼ据え置きで動いていくのではないかと考えている。合板業界全体で、スギもカラマツも若干の上げ下げはあるかもしれないが、価格は大きく動かない傾向にあると思う。いまだ、合板業界の減産体制は解消されていないようなので、合板をメインにしている樹種は、もう少し苦勞していかなきゃいけないと考えている。

○チップ関係について、商社関係はかなり強気な販売計画を立てているようで、それに追従してチップの価格も相当上がってきており、バイオマス関係にも影響が出ている。岐阜県内ではバイオマス工場が増えており、少し前までバイオマス工場間の材の取り合いで、集荷にかなり苦勞していたようだ。

現在、バイオマス業界は未利用材（D材）にシフトしており、集め方を研究している。未利用材の販売に対しては、材の取り合いにならないように、皆で考えてきちんとした棲み分けをしたやり方がよいと思っている。